



村小だより

令和2年4月14日発行

教育目標「自治三訣」を心に刻んで ～子どもも職員も～

校長 鈴木 正美

桜の開花に合わせ、村上小学校の令和2年度第1学期が始まりました。新入生43人を含み、子どもたち248人(昨年度比-1)と教職員40人でのスタートです。新型コロナウイルス感染防止対応が迫られる中ですが、学校やお城山、町中の桜花が心を和ませてくれます。

始業式では、いつものように教育目標「人のお世話にならぬよう 人のお世話をするよう そしてむくいを求めぬよう」(自治三訣)について、子どもたちに説明しました。

○「人に迷惑をかけず、自分が成長するために、何事にも進んで取り組むこと」

○「人を優しく思いやる気持ちをもって、何事にも共に助け合いながら取り組むこと」

○「ご褒美がなくても、学級・学校・地域のために、学んだことを生かして取り組むこと」

全校で教育目標のような自分になることを目指して、それぞれの学年に応じた具体的な目標やめあてを立て、一人一人が努力してほしいという校長としての願いを伝えました。

私たち職員も4月1日の初顔合わせで、「心のこもった、やさしい教育」をモットーに、村小職員の心得(三つ)を心に刻みました。私たちも教育目標のような教職員組織(チーム村小)を目指します。今年度も、変わらぬご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

1 「学校は子どものためにある」

子どもは地域の宝です。子どもがいるから村上小学校があります。いつも、どんなときも「村小の子ども」一人一人を大切にする学校、子どもに寄り添い、支え、鍛え、生きる力を育てる学校でなければなりません。

2 「学校の教育活動の中核は授業である」

目指す子どもに迫るために、「子どもたちが自ら学び、共に高め合い、力を付ける授業」を創造することが教員の使命です。そのために、自己の力量アップに努めなければなりません。授業をもたない職種の職員であろうとも、その務めは教育活動の中核を支えることに必ず繋がっています。

3 「真摯で、謙虚なわたしたちでありたい」

一言でいえば、「させてもらっている」意識をもつことです。学校教育は、子どもや保護者、地域のための仕事であるという意識で取り組むことが大切です。

<令和2年度の児童数並びに学級編制> (男子128人 女子120人)

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	全校(人)
1 組	2 2	1 9	2 1	2 3	2 2	3 4	2 4 8
2 組	2 1	1 8	2 1	2 4	2 3		
合 計	4 3	3 7	4 2	4 7	4 5		

※特別支援学級(3学級)在籍児童は交流学級に含まれています。

